

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		長野大学		設置者名	学校法人 長野学園			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成20年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業生数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
社会福祉学部	社会福祉学科	150人	中一種免(社会)	昭和50年度	227人	26人	19人	10人
			高一種免(公民)	平成2年度			15人	
			高一種免(福祉)	平成13年度			8人	
			高一種免(地理歴史)	平成20年度			0人	
			特支一種免(知・肢・病)	平成21年度			9人	
環境ツーリズム学部	環境ツーリズム学科	75人	中一種免(社会)	昭和50年度	0人	0人		0人
			高一種免(公民)	平成2年度				
			高一種免(地理歴史)	平成20年度				
企業情報学部	企業情報学科	75人	高一種免(情報)	平成13年度	0人	0人		0人
入学定員合計		300人	合計		227人	26人	51人	10人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成21年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄には各学科等の実人数を、「個別」欄には各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

# 実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成21年11月17日（火）

実地視察大学：長野大学

実地視察委員：佐々木正峰委員・横須賀薫委員

## ■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

### <状況>

- ・3学部3学科において教員養成を行っている。

### <講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等について、全般的に基準を満たしている。

## ■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

### <状況>

・建学の理念として「全人的人間形成」を掲げ、「広い社会的視野の涵養」「学問理論の生活化」の理念のもと、各学部の専門課程の特色を生かしつつ、広い視野に立った教員志望者を養成するという観点から運営されている。その際、社会科学系の私立大学である特性を発揮し、社会科学的な知見と幅広い教養を備えた教員を育てていくことを教員養成の理念の中心的な柱としている。

### <講評>

・教員養成に対する理念や構想が示されているが、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めてほしい。

## ■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

### <講評>

・授業内容欄を「〇回～〇回」とまとめて記載しているシラバスや、複数回に渡って同様の内容を取り扱っている授業のシラバスについては、各回のキーワードを具体的に明記してほしい。

・出席を評価に加えている授業があるが、原則として授業に出席することが通常のため、出席を評価に加えないでほしい。

・授業計画の15回分の中において、「中間試験」や「期末試験」のみを扱う授業を設けないで欲しい。

・「各教科の指導法」について、「学習指導要領」を使用していない授業が散見されるので、テキストまたは参考書において必ず各教科の「学習指導要領」を使用してほしい。

・教職科目に関わらず、教養教育課程においても、社会変化に柔軟に対応することができる社会人を育成するべくカリキュラム編成を構築してほしい。

## ■ 教育実習の取組状況

### <状況>

・基本的には出身校において実習を行っている。各自の出身校における受け入れが困難な場合のみ、大学の教職課程推進室が承諾を得ている実習校において実習を行っている。

### <講評>

・平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」では、教育実習においては、課程認定大学と実習校の協力により、授業案を作成したり、教材研究の指導を行うなど、大学の教員と実習校の教員が連携して指導に当たる機会を積極的に取り入れることが必要である。また、実習実績の評価についても、適切な役割分担の下に、協働して行うことが適当であるが、その場合には、実習校により評価にばらつきが生じないように留意する必要がある。

・母校実習については、平成18年7月答申において、大学側の対応や評価の客観性の確保の点で課題も指摘されているため、できるだけ避ける方向で検討してほしい。

## ■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

### <状況>

・教職課程担当教員の演習等の授業を通じて、近隣の学校の学校行事等に積極的に参加している。また、学校長より学習や遊びの支援などについてボランティア派遣の依頼があり、これらを受けて派遣の方針、手続き、事務担当部局などを定めて組織的に対応することとしている。

### <講評>

・大学の授業に参加している社会的弱者に対する支援体制やそれに対する大学担当者及び学生の意識が強い、という点は高く評価できる。

## ■ 教職指導及びその指導体制の状況

### <状況>

・年度当初の科目履修オリエンテーション等において、科目履修規程やカリキュラム表、科目履修方法等を学生へ説明して周知を図っている。その後は、教職課程推進室員および教育支援課職員等を中心に適宜履修指導を行っている。

### <講評>

・教員免許取得者数が極めて少ないと判断されるため、学生に対して「教職の魅力」を十分に伝えることができるような教職指導体制を構築してほしい。

・キャリアサポートセンター等の学生支援機能が弱いと判断されるため、学校現場等を経験した教員を積極的に招聘するなど、学生にとって利用しやすい体制を構築してほしい。

## ■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

### <状況>

・全学的組織として、教務に関わる事項を司る大学教育センターの下に教職課程推進室が組織されている。その目的は、「教職教育にかかわる研究と開発、および教職課程を履修する学生支援」にある。具体的には、①教職教育の基本方針の審議、②教職教育にかかわる研究および開発、③教職教育の自己点検・評価、④大学教育センターとの連絡調整などを業務としている。全学の教職課程の履修指導と教育課程実施の責任は、教職課程推進室が責任を負う体制となっている。

### <講評>

・教職課程推進室については、大学全体として教職課程を責任を持って運営していく上での中心的な役割を担う機関としての機能が弱いと判断する。本件については、平成18年7月の中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」において提言されている「教職課程の質的水準の向上」のための方策に則り、今後は教員養成カリキュラム委員会の機能の充実・強化をはかってほしい。

## ■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

### <状況>

・学内施設・設備、教育機器等は、学生数の規模に応じて整備されている。

### <講評>

・図書館については、教職に関する科目に係る図書、学術雑誌等の資料等が豊富に揃えられており、高く評価することができる。